

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和2年 5月 25日

兵庫県知事 殿

提出者

住所 神奈川県相模原市南区麻溝台1丁目
7番1号氏名 プライムデリカ株式会社
代表取締役 齊藤 正義

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 042-702-0111

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称 プライムデリカ株式会社 宝塚工場

事業場の所在地 兵庫県宝塚市高司4丁目6番40号

計画期間 令和2年4月1日から令和3年3月31日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

①事業の種類 0996 そう(惣)菜製造業

②事業の規模 売上高 105億円 平成31年度(令和1年度)実績

③従業員数 950名

④産業廃棄物の一連の処理の工程

○動植物性残差 ⇒ 堆肥化・飼料化 ⇒ リサイクル売却
○廃プラスチック ⇒ 破碎 ⇒ リサイクル・埋立
○金属くず ⇒ 粉碎 ⇒ 埋立
○ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず ⇒ 粉碎 ⇒ 埋立

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)
・工場長を責任者とし、その下に製造部・品質管理課・施設課・西日本商品本部(第一部)・商品開発課・総務課・仕入課が並列されている。廃棄物の管理は仕入課が担当している。
教育研修：社員に対しては直近の廃棄状況を随時連絡し、共通認識しながら減量意識を高めている。
パート従業員に対しては、朝礼等で分別廃棄の方法を指導している。

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

別紙1、2の通り

①現状	【前年度(令和 年度)実績】		
	産業廃棄物の種類		
	排出量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	排出量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の分別に関する事項

別紙1、2の通り

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

別紙1、2の通り

①現状	【前年度（令和 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

別紙1、2の通り

①現状	【前年度（令和 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事		別紙1、2の通り	
①現状	【前年度（令和 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	（これまでに実施した取組）		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	（今後実施する予定の取組）		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
①現状	【前年度（令和 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	（これまでに実施した取組）		

②計画	【目標】		別紙1、2の通り	
	産業廃棄物の種類			
	全処理委託量		t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量		t	t
	再生利用業者への 処理委託量		t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量		t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量		t	t
	(今後実施する予定の取組)			

(第6面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

別紙1(廃棄物処理法-産業廃棄物処理計画書)

現状：前年度(平成31年度)実績量

計画：今年度(令和2年度)計画量

単位:トン/年

産業廃棄物の種類	排出抑制に関する事項		自ら行う再生利用に関する事項		自ら行う中間処理に関する事項				自ら行う埋立処分等に関する事項		処理委託に関する事項									
	排出量 (前年度実績値の①)		自ら再生利用を行う産業廃棄物の量 (前年度実績値の②+⑧)		自ら熱回収を行う産業廃棄物の量 (前年度実績値の⑤)		自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量 (前年度実績値の⑦)		自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量 (前年度実績値の③+⑨)		全処理委託量 (前年度実績値の⑩)		優良認定処理業者への処理委託量 (前年度実績値の⑪)		再生利用業者への処理委託量 (前年度実績値の⑫)		認定熱回収業者への処理委託量 (前年度実績値の⑬)		認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量 (前年度実績値の⑭)	
	現状	計画	現状	計画	現状	計画	現状	計画	現状	計画	現状	計画	現状	計画	現状	計画	現状	計画	現状	計画
0100燃え殻																				
0200汚泥																				
0300廃油																				
0400廃酸																				
0500廃アルカリ																				
0600廃プラスチック類	20.1	19.9											20.1	19.9	5.1	5.0				
0700紙くず																				
0800木くず																				
0900繊維くず																				
1000動植物性残渣	2152.0	2130.5					630.6	636.9			1521.5	1506.3	49.5	49.0	1521.5	1506.3				
1100ゴムくず																				
1200金属くず	31.6	31.3											31.6	31.3						
1300ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず	18.0	17.8											18.0	17.8						
1400鉱さい																				
1500がれき類																				
1600動物のふん尿																				
1700動物の死体																				
1800ばいじん																				
合計	2221.8	2199.6	0	0	0	0	630.6	636.9	0	0	1521.5	1506.3	119.3	118.1	1526.6	1511.3	0	0	0	0

別紙2 (廃棄物処理法-産業廃棄物処理計画書)

1 当該事業場において行っている事業に関する事項

①事業の種類	0996 そう(惣)菜製造業
②事業の規模	売上高 105億 平成31年度(令和1年度)実績
③従業員数	950名
④産業廃棄物の一連の処理の工程	○動植物性残渣 ⇒ 堆肥化・飼料化 ⇒ リサイクル売却 ○廃プラスチック ⇒ 破砕 ⇒ リサイクル・埋立 ○金属くず ⇒ 粉砕 ⇒ 埋立 ○ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず ⇒ 粉砕 ⇒ 埋立

2 産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項 (管理体制図等, 別紙3を参照)

3 産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	(これまでに実施した取組) ・有価売却できるものの分別を徹底し、廃棄物発生量を削減。 ・植物性残渣と動植物性残渣の分別排出の徹底。 ・計量指示通りの生産を徹底し、過剰投入による廃棄物発生を抑制。 ・製造ミスによる廃棄物発生量の抑制
②計画	(今後実施する予定の取組) ・有価売却できるものの分別を徹底し、廃棄物発生量を削減。 ・植物性残渣と動植物性残渣の分別排出の徹底。 ・製造時の過剰投入による廃棄物発生を抑制、製造ミスによる廃棄抑制。 ・植物性残渣の自社中間処理量の増量。

4 産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・動植物性残渣、廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、汚泥を分別・保管。
②計画	(今後、分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・植物性残渣の分別を徹底し、自社中間減容処理の量を増やす。

5 自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	(これまでに実施した取組) ・植物性残渣の減容脱水処理を実施。
②計画	(今後実施する予定の取組) ・植物性残渣の減容脱水処理量を増加。

6 自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	(これまでに実施した取組) ・特になし。
②計画	(今後実施する予定の取組) ・特になし。

7 自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	(これまでに実施した取組) ・特になし。
②計画	(今後実施する予定の取組) ・特になし。

8 産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	(これまでに実施した取組) ・産業廃棄物を委託できる業者を書面による契約。 ・電子マニフェストの運用の為、電子マニフェスト対応可能な処理業者の選定。
②計画	(今後実施する予定の取組) ・定期的に処理業者の現地確認を実施。

○管理体制図

・工場長を責任者とし、その下に製造部・品質管理課・施設課・西日本商品本部(第一部)・商品開発課・総務課・仕入課が並列されている。廃棄物の管理は仕入課が担当している。
教育研修：社員に対しては直近の廃棄状況を随時連絡し、共通認識しながら減量意識を高めている。パート従業員に対しては、朝礼等で分別廃棄の方法を指導している。